

# 桜陽新聞

＜編集元＞

東京都立国際高等学校

1年C組6番

大谷桜子

## 女性が働きやすい環境を

### 国資が海事産業における女性の活躍を支援

海洋立国日本で、海事産業はが多いとのイメージが定着し我が国経済及び国民生活に大ていけることもあり、業界の大きな役割を果たしており、その性人口は、他の産業に比べての持続的な発展には、数多くの優秀な海事人材の活躍が必ずや必要不可欠である。女性が活躍できる仕事も数多くあるが、海事産業は、男性中心の仕事で、身体的負担の大きい作業をする取組事例や現役女性職員の間で、

声をまとめ、国土交通省ホームページにおいて公表した。『輝け！フネージョ☆』をスローガンに、現在第三弾までを掲載している。フネージョは海事産業に携わる女性を意味する造語である。これをキャッチコピーに、国交省はこの取り組みを進めている。



## 課題を抱える海事産業 魅力的な職場づくりを目指して

海事産業において女性の従事者が少ない問題。男女間での体力や体調の不安定さの違いから諦めてしまう女性も多いが、それだけではなく、一緒に結婚・出産後も仕事を続けられるか。男性船員が大勢を占めるなか、一緒に仕事をしていけるか。セクシャル・ハラスメントを受けないか。家族の理解・支援が受けられるか。そういった不安を抱えているために諦めている女性が多いのは確かだ。

また、就職活動をしている人々にとっては、そもそも女性を雇ってくれるところが少ない、という根本的な問題にぶつかっている人もいる。男性の視点から見ても、女性を受け入れることに抵抗を感じている職場も少なくない。国交省の出す取組事例案に記載するような場所はごくごく一部であり、解決すべき課題が残っているのは事実である。

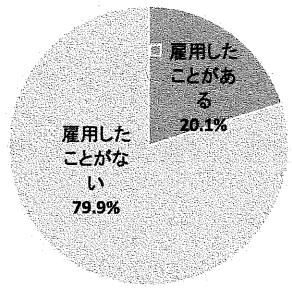
総雇用船員数が約一万九百八十人。その中で女性の割合はたったの0.2%だ。魅力的な職場を目指し、今日も奮闘している。

## 海事産業とは何か？

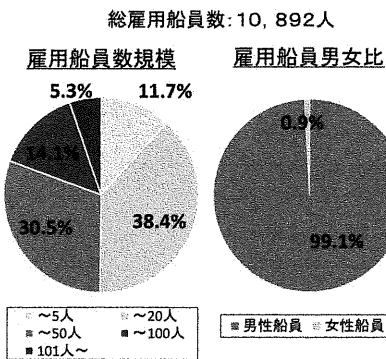
### 知っておきたいあれこれ

海事産業とは、海運業、造船業、船用工業の総称のこと。海運業は、一般に船舶を用いて旅客または貨物を海上輸送するというサービスの提供によって利益を得る事業のことをいう。国内の海上輸送を行う内航海運と、海外で行う外航海運に分けられる。

造船業は、船主からの依頼を受けて船舶の建設を行う事業のことである。造るだけではなく、もちろん修繕も行う。船舶に搭載するエンジンなどの部品を製造する産業であり、常に世界のトップクラスを維持してきた我が国造船業を支えている重要な産業。機器の技術向上を図りながら発展を遂げてきた。



女性船員を雇用した事があるか

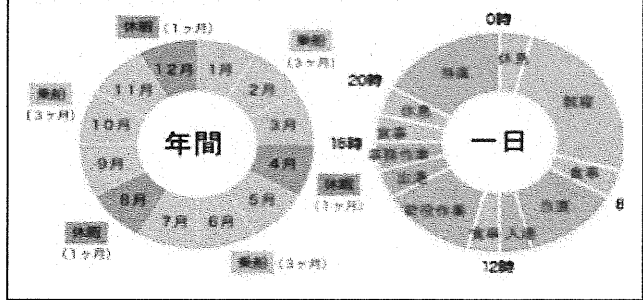


### 働き方改革

船員は、国内物流の約4割、離島住民など約8千万人の輸送を行うなど、我が国経済・国民生活を支える大変重要な役割を果たしている。そんな大切な職業であるからこそ、国土交通省では、船員が将来にわたって重要な役割を果たしていけるよう、「働く人＝船員」の視点に立った船員のための「働き方改革」に向けた取組みを進めている。

# 多様な働き方を見つける 始まる働き方改革

◆内航船員のスケジュール(例)



現在、海事産業における働き方改革が国交省を中心に進められている。上のスケジュールを見てみて欲しい。これからわかるように、現在年間を通じ長期間の乗船をしている、つまり毎日の長時間労働が行われていると分かるだろう。

内航船員では船員の不足・高齢化が進行する中、陸上との人材確保競争が激化しており、働き方改革を通じ内航船員という職業を魅力ある職業へと変えていく必要がある。

また、内航海運業では脆弱な経営基盤・荷主との硬直的関係という構造的課題に加え、今後到来する内航海運暫定措置事業の終了等の事業環境の変化を踏まえ、内航海運事業のあり方を総合的に検討する必要がある。そのためにも、この長時間労働を真っ先に改善せざるを得ないという。

- 健全な船内環境づくり
- ・メンタルヘルス、身体健康管理、供食環境の改善等
- 労働環境の改善
- ・労働時間管理や休暇取得のあり方、多様な働き方

な働き方への対応  
これらのことが挙げられている。

船員は陸上に比べストレスを感じる人が多いという。危険と隣り合わせな仕事であること。運航スケジュールがハードであること。気の合わない上長と乗船すること。これが主な原因だという。ただでさえ生活が大変な仕事で、ここまで多くのストレスを抱えるとなると、辛い部分も多いただろう。

国土交通省が定期的に船員にアンケートを取り、その結果を話し合いながらよりよい職場づくりになるよう改革を進めている。

## ▽編集後記

今回、こうして海事産業について調べるまでは、本当に海事産業に関する知識もなまだった。海事産業と言われても、海事産業って一体何なのか、というところからだった。それでも、こうして調べていくうちに、海事産業における取り組みや課題を知って、より一層、身近に感じることが出来るようになった。海に囲まれた国である日本にとって、必要不可欠な産業。AIでもロボットでもこの仕事を人間から奪うことは不可能だろう。だからこそ、より一層発展していくべきであると思う。この話題に関する情報を、どこまで盛り込むべきか。どうしたら上手く誤解を生まない表現で相手に伝えるかを新聞を作る過程でも考えた。難しい部分も多々あったが、そこで学んだことは、一つの情報を様々な角度から見極めることが大切だということだ。これからも、この視点を忘れずにいたい。

## 人材の育成に励む 日本の海事産業の更なる発展に向けて

海事産業に関する情報は、小学生、中学生、保護者、教職員等発信していく対象によって手段や内容を変える必要がある。特に、小・中学生には、海事産業の重要性はもとより、将来の職業の選択肢と

して海事産業を意識してもらうように小・中学校の段階からの学習・啓発が重要である。子供たちに海の魅力や海事産業の重要性を伝えていく上で教育現場と連携していくことはたいへん重要かつ有効であるため、

国土交通省では、関係者と協力し小・中学校における社会科見学、小・中学生と保護者を対象とした体験航海・海洋教室などを実施するとともに、社会科の授業で海事産業を取り上げてもらうため、教師を対象とした海洋体験実習を実施している。また、情報を提供するサイトとして「海の仕事.com」も立ち上げ、情報の提供に務めている。

